



2020年12月15日

各 位

上場会社名 株式会社 ミロク
代表者名 代表取締役社長 弥勒 美彦
(コード番号 7983)
問合せ先責任者 取締役管理本部本部長 古味 俊雄
(TEL 088-863-3310)

「2021 中期経営計画」策定に関するお知らせ

当社は、2021年10月期を初年度とする3か年のローリングを行い「2021 中期経営計画」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 「2021 中期経営計画」策定の背景

2020年10月期の実績は、猟銃事業では新型コロナウイルス感染症の影響による受注キャンセル等により利益が減少し、工作機械事業でも当該ウイルスの影響で営業活動が進まず、ツール部門等における下振れにより利益が減少し、全体として、経常利益は前期比40%超減の756百万円の実績となりました。ここ数年続いた経常利益10億円超は達成できませんでしたが、このコロナ禍のなかでも相応の利益を創出する事業基盤は、着実に構築できております。

「2021 中期経営計画」につきましては、この世界的に未曾有の感染症の影響を抑えながら、利益成長トレンドへの回復を図っていく期間と位置づけ、当中期経営計画を策定いたしました。

2. 「2021 中期経営計画」の基本方針

当社は2018年度より、ミロクグループの長期ビジョンとして「主力三事業の強みを活かし、向上させ、かつ新たな事業を創出することで盤石の経営基盤を築き、今後も成長し続ける企業グループを目指す」を掲げ、その実現に向けたマイルストーンとして中期経営計画を策定しております。

「2021 中期経営計画」としましては、引き続き製品及びサービスにおいて競合他社と差別化を図り、収益性及び需要変化への対応力を意識した収益基盤の構築、事業間のコミュニケーションの強化を通じて次代を担う人財の育成と活性化を図ることを基本戦略として推進してまいります。

猟銃事業につきましては、世界で高い認知度とブランド力を誇るブローニンググループと高品質かつ多品種少量生産を可能とする当社の強みを活かし、魅力的な新製品をタイムリーかつ継続して市場投入していくことで、コロナ禍が収束した後の販売機会も逃すことなく、市場シェアの維持拡大に努めてまいります。工作機械事業では、深穴明けというニッチな市場のハード面、ソフト面の両方のトータルサービスができる総合メーカーとして、引き続き加工部門を収益の柱と位置づけ、また機械部門とツール部門の受注を回復させるべく営業力を強化してまいります。自動車関連事業では、木製ステアリングハンドルと3Dドライ転写ステアリングハンドルの新製品開発とQCD（品質・コスト・納期）向上に注力し、主力三事業で計画の達成に邁進いたします。併せて、既存事業に次ぐ新たな事業も継続して模索してまいります。

3. 事業別重点施策

① 猟銃事業

猟銃事業につきましては、ブローニンググループへの OEM 供給を行っており、ビジネスパートナーとして良好かつ密接な関係を構築しております。主力の米国市場は、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、ダウ平均株価も当該感染症発生前の水準を取り戻す等、当社猟銃事業にも明るい材料となっております。この需要獲得に向けて、新製品のタイムリーな市場投入を図り、ロボットを活用した磨き作業の自動化、ライフル銃身等生産の効率化を重点課題と位置づけ、生産性の向上と品質の安定により、顧客ニーズに対応した柔軟な供給体制の構築を目指します。なお、品質につきましては、特殊な当社製品の性質上、その不具合に起因する事故は当社グループの事業活動継続に大きな影響を及ぼすため、出荷時の検査体制はもとより、後工程へ不具合品を出さない自工程完結の仕組みを徹底させ、品質管理体制の強化に絶えず取り組んでまいります。

② 工作機械事業

工作機械事業につきましては、従来の米中貿易摩擦による不透明感に加え新型コロナウイルス感染症の影響により、一層先行きが見えない状況であります。

このような環境のもと、販売戦略としては機械部門では継続して樹脂部品に必要な金型の穴明け需要を取込み、また日系企業が進出している東南アジア等の自動車部品メーカーの専用機で市場開拓を図ります。また、ツール部門では国内外を担当する営業体制とし、ユーザー情報を共有化し販売促進につなげていきます。加工部門では、引き続き全国 4 拠点の稼働率向上を目指し、また拠点の追加も模索してまいります。さらに全部門において原価低減を推進し、ニッチな市場での売上高及び利益拡大に邁進してまいります。

③ 自動車関連事業

自動車関連事業につきましては、自動車業界を取り巻く大きな環境変化を踏まえ、部分ウッドステアリングハンドルと 3D ドライ転写ステアリングハンドルの新製品開発による付加価値の増加に加え、次世代純木製ステアリングハンドル開発に着手し、顧客の嗜好に対応して、当社加飾ハンドルの商権の維持拡大につなげていきます。全社的には、生産管理業務の効率化・標準化を推進し、製品構成の変化に対応した工場レイアウトを追求することにより、製品競争力を高めてまいります。また従来の自動車以外の新規案件開拓活動も継続し、中期的な売上高と利益の確保に努めてまいります。

4. 数値計画（連結）

単位：百万円

	2020/10 期 実績	2021/10 期 予想	2022/10 期 予想	2023/10 期 予想	(ご参考：過去最高益) 2005/10 期 (実績)
売上高	13,635	13,400	14,100	14,800	15,396
営業利益	562	350	550	920	1,361
経常利益	756	450	680	1,110	1,641
親会社株主に 帰属する 当期純利益	440	300	460	750	1,028

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上